

# 明大闘争の意義と方針

卒直にいうと私は今回の明大闘争の意義を全く認めない。過去の学費改訂反対闘争がそれであった様に、今回もまた追従闘争・スケジュール闘争・アドバルーン闘争といった意味しか持ち得ないからである。明大における学生闘争の必然性は決して左翼的進歩派学生による七〇年安保前哨戦工作ではないはずである。これはわたくしだけでなく多くの学生および教職員一般の感覚であると思ふ。しかし現在の学生運動は、活動家の言葉を借りれば「一切の日常性を打破するなかから、反政府反権力闘争としてのエネルギーを生み出すべきである」というのであるから、紛争の当事者たる大学当局と学生との間に建設的な意思の一致ないし改革の方向性が生れる事はない。なほ、全学共闘会議の中心部を牛耳る諸派は、本来冒険主義的共産主義者集団であるから、究極は日本の共産主義勢力革命を起すまで行っているのである。単に「私立大学の改良」は、闘争遂行上のお題目に過ぎないからである。多くの学友が皆「この点に特に留意して欲しい」といふ。もし本誌に

明治を愛するのなら、今こそ声を大にしてその意思を表明してもらいたい。そもそも今回の闘争（紛争と置き換える方がむしろ妥当であるかもしれない）は、年頭から騒がれた寮問題や数年来の懸案たる学館問題などの諸要求を、個々の各闘争委員会が分担して押し進める中で、一部においては六月十七日の学生大会を前にして、六項目要求という形に一本化し、

言わば題材的には学内改良闘争として取り組もついたのである（勿論その真の目的は別の次元にあるのである）。折から東大闘争、日大闘争を頂点とする全国津々浦々の大学紛争の激化、慢性化に伴って、政府による大学問題解決の「環」を、いわゆる大学立法が国に在るが、八月三日日大闘争の中で強行採決された。この社会的背景は明大闘争にも必然的に波及するものとなり、大

## 学生大会でスト解除

### 今回はスケジュール闘争にすぎない

#### 体育会

月二十一日の二部全共闘結成と全学バリケード封鎖という闘争のパターンの中で、大学立法反対の全学的気運が盛り上がり、それが発火点となって政治闘争的色彩の濃い要素が組み入れられていった。

以後の彼らの論理の飛躍は決定的なものである。大学立法反対、佐藤訪米阻止、七〇年安保紛争、闘争自体の学内における直接的連関性とは裏腹に、その規模はますます増加

に激しく拍手を呼び合っているものである。これから、果してどちらが主導権を取って、くは解らないが、どちらもアップアップには変りない。尤も戦術の違いこそあれ、どちらも真の民主主義的大家支持（議会制民主制に一形態が現れる。例えは学生大会によるストライキ権の確立など）は得られていない事は明白である。一部学生大会では確かに多数の上ではスト権は確立されたが、そこに到る討論の段階、採決の方法は、まさに自民党の強行採決そのものであった。二部ではその学生大会すら流会となつて

育会を取り囲む準備勢について少し触れてみたい。七月二十四日付明治大学新聞に掲載された在田共闘ニュースの分析によれば、「学内設備執行部は右派K部長の線と左派T理事の線との路線が敷かれており……」と書かれているように、大学上層部の派閥間による意思がわれわれの体育会にストライキに及ぶと見ている人（一部の教授、職員および全共闘派学生）がいるのである。この様な考えこそ、明治大学を遊撃させるには、百善あつて一利なしであると言言を為す。われわれの真剣な主張を頭から何かのからいではないかと疑ってかかる人々よ、そうとうあなた方の思想は誰からの借物なのかをよく認識してほしい。

の二途を辿っている。しかし唯一の活動基礎である学内の改革放棄、あるいは無視しているがゆえに、最終的には大衆から離反せざるを得ないのが今日の全共闘の姿であり、彼らの「闘争」なのである。

と「いんちやん」騒ぎを起してその手を物理的に目覚めさせる。その結果はと言へば、寝ていた手はまた場所を変えて寝ただけなのである。学園における闘争の主体者たる学生の意識は、依然として低迷しているのが実情なのであるし、確たるユニークな論戦がないのも、チーゼなき闘いと評される明大闘争の特徴である。

今後とも体育会は、その信するところに従います。まず、この機会と、場所を求めて台頭するであろう事を確認しておく。われわれはあくまで学生自身の手によるストライキの解除を目指している。従ってそのためには慎重なる討論会や、抗議集会を持ち、最終的には中絶をして、学生大会を開かぬ、その場で今度こそは、大衆的支持によるストライキ解除と、大学の歩み寄りが果たされるであろうと確信する。

明大闘争にも必然的に波及するものとなり、大

いかに今後の展開を試みる前に、現在の体

最後は今後の展開を試みる前に、現在の体

最後は今後の展開を試みる前に、現在の体

最後は今後の展開を試みる前に、現在の体

渡辺 健二  
(二部高学部四年)